

やまがた幸せエピソードコンテスト【エピソード部門審査結果】

賞	タイトル	応募者名 (敬称略)	作品
最優秀賞	お客様はラーメン	いりこだし	<p>私が子供の頃、午前中のお客様が昼近くまでいらっしやると、必ず出前でラーメンを取ってご馳走したものです。「もうこんな時間だ！お昼だから、帰るよ。」と、お客様が帰ろうとすると母は「あら！今、ラーメン注文したから、食べてってける！」と言って引き止めたものでした。母は、私の分もラーメンを注文してくれるので、子供の頃の私は、午前中の来客があると「やったあ！ラーメンだあ！」と嬉しくて、お客様の顔がラーメンに見えるようでした。</p> <p>お客様も、お寿司なら恐縮して遠慮してしまうかもしれませんが、ラーメンなら断れない。スグ食べないと伸びてしまうので、注文されたら、遠慮せずご馳走になれるラーメン！山形県民のさり気ない気配りと、おもてなしの気持ち。ご馳走と言っても、飾り気のないシンプルな醤油ラーメン。山形市のラーメン支出額が1位、2位なのも、そのDNAからくるものなのかもしれません。</p> <p>出前のラーメンは、山形のやさしさが詰まったご馳走です。</p>
優秀賞	おいしいごはん	さいぜん	<p>ぼくはおばあちゃんが作ってくれるいもに大好きです。里いもがたくさん入っていて、いつもおかわりして食べます。でも、キノコは苦手なのでキノコだけぬいてもらっています。あと、おばあちゃんが作ってくれるだしも大好きです。キュウリやナスやオクラがシャキシャキして、とてもおいしいです。ぼくが「うまい！」と言って食べていると、この野菜はおじいちゃんの畑でとれた野菜だと教えてくれました。</p> <p>おじいちゃんは野菜作りの名人です。畑ではキュウリやナスの他にもトマトやトウモロコシなどいろいろな野菜を育てています。おじいちゃんの畑に手伝いに行った時、とてもたくさんの野菜がなかったので楽しくなってたくさんとっていると、この畑のなえは天童のおじいちゃんの家からもらってきたものだと教えてくれました。</p> <p>ぼくが食べるまでいろいろな人がつながって、まるでぼくのおなかのゴールを目指してリレーしているようでおもしろいと思いました。そして、毎日おいしいごはんが食べられて幸せだと思いました。</p>
優秀賞	山形のよいところまた来てござれ	林 和子	<p>猛暑の続いたある日、汗を流そうと近くの温泉施設へ車を走らせた。目に入る月山の姿は、いつもながら、なだらかで美しい。テレビから聞こえてくる「もしも東京の真ん中に山があったなら、僕たちはもっと優しくなれるのかな」のCMをふと思い出す。</p> <p>露天風呂も満喫し、帰路の途中、果樹園の道ばたで、桃や梨を買い求める。これぞ元祖無人の店だ。</p> <p>夕方、ご近所さんから、家庭菜園で採れたきゅうりやトマトをどっさりいただく。このあたりは、素人農家が多いのだ。町内の老人クラブも、共同の畑を持っていて、ついこの間も、いも掘りに精を出したばかりだ。</p> <p>夕ご飯は、いも煮、実家から届いた「だだちや豆」をつまみに、地酒で晩酌。ほろ酔い気分になった頃、東京の友から電話が。他愛ない話の後に、「コロナがおさまったら、また山形に来てけるな」と言ってしまい、ひとりで苦笑い。これまで友と話す時は、山形弁など出なかったのに。若い頃、六年過ごした東京を「都落ち」のような思いで帰郷した私が、半世紀近くをへて、いつのまにか正真正銘の「山形のおなご」になっている。</p> <p>さて美酒も飲み干したことだし、今夜は、ぐっすり眠れそうだ。</p>
優秀賞	うまい!! 山形の幸せ	きゅうり大好き	<p>「ピンポン」六月下旬の朝早く、玄関のチャイムが鳴りました。出てみると近所のKさんがレジ袋を下げて立っていました。挨拶すると、その袋を私に突き出すので、受け取って中を見てみたら、まっすぐに伸びつやつやした胡瓜が五本入っていました。</p> <p>「あらら、胡瓜、なったのがあ？」</p> <p>我が家でも家庭菜園で胡瓜を植えましたが、まだ採れるほど育ってはいません。Kさんは畑上手でいろんな野菜を作っています。毎年、初挽ぎの胡瓜を持ってきてくれるのです。</p> <p>胡瓜はスーパーに行けば冬でも売っていますが、私は買いたいと思いません。作物は地物がいちばんおいしいと思うからです。初物の胡瓜はみずみずしく、とても柔くて、待ってましたとばかりにいただきました。洗って味噌をつけてバリバリと味わいました。</p> <p>我が家の胡瓜がなる頃は、夏も真っ盛りでサラダや漬物、だし、煮物などにして食べますが、それでも食べ切れずに持て余してしまうほどです。しかし、夏の暑さも和らぎ、秋の虫の音が聞こえる頃には、胡瓜もとれなくなり、生の胡瓜は食べられなくなるのです。</p> <p>食材には「はしり」「旬（さかり）」「名残り」とあって、味わいが違います。地物の食材はそれぞれを身近に味わえる良さがあります。四季の移ろいを感じられる山形県に住んでいることは、本当に幸せなことだと心から思っています。</p>